| タイトル | | コンテナ位置・状態照会処理 |  | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 処理設計書 | |
| 入　　力 | 処　　　　理 | | | 出　　力 |
| * 原票管理テーブル　 ・ナンバー地名マスタ * 集荷管理テーブル 　 ・ナンバーかなマスタ * 配達管理テーブル　 ・コンスタントマスタ * コンテナ管理テーブル ・輸入コンテナ情報テーブル * 原票輸送情報テーブル ・輸出コンテナ情報テーブル * 利用者関連付けテーブル ・船舶動静テーブル * 臨時トラック管理テーブル ・使用料留置料対象情報テーブル * 利用者トラック管理テーブル * 船舶積載報告管理テーブル * 利用者マスタ * 集配人マスタ * 留置先マスタ * メッセージマスタ * 駅マスタ * ユーザー管理テーブル * ＦＲＥＮＳ稼動状況マスタ * お客様マスタ　　・親荷主お客様関連付けマスタ * 親荷主マスタ　　・原票輸送情報テーブル　・長期停泊起算日警告マスタ * 親荷主子荷主マスタ　・メニュー管理マスタ　・制限解除利用者マスタ   ユーザー管理テーブル  メッセージマスタ  メッセージマスタ  メッセージマスタ  親荷主マスタ  親荷主子荷主マスタ  お客さまマスタ  お客様マスタ  親荷主マスタ  親荷主お客様関連付けマスタ  客户主人  父母托运人主人  家长托运人客户协会主人  メッセージマスタ  メッセージマスタ  コンテナ管理テーブル  メッセージマスタ  原票管理テーブル  メッセージマスタ  原票管理テーブル  メッセージマスタ  メッセージマスタ  コンテナ管理テーブル  メッセージマスタ  利用者関連付けテーブル  メッセージマスタ  メッセージマスタ  原票管理テーブル  コンテナ管理テーブル  メッセージマスタ  コンテナ管理テーブル  長期停泊日数管理マスタ  原票管理テーブル  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  原票管理テーブル  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  コンテナ管理テーブル  長期停泊日数管理マスタ  コンテナ管理テーブル  ナンバー地名マスタ  ナンバーかなマスタ  ナンバー地名マスタ  ナンバーかなマスタ  コンテナ所在照会回答電文(553)  メッセージマスタ  コンテナ所在照会回答電文(553)  原票管理テーブル  原票輸送情報テーブル  コンスタントマスタ  輸入コンテナ情報テーブル  輸出コンテナ情報テーブル  コンスタントマスタ  船舶動静テーブル  コンテナ所在照会回答電文  原票管理テーブル  コンテナ管理テーブル  メニュー管理マスタ  メッセージマスタ  駅マスタ  メッセージマスタ  駅マスタ  メッセージマスタ  駅マスタ  メッセージマスタ  利用者マスタ  メッセージマスタ  集配人マスタ  メッセージマスタ  親荷主マスタ  お客様マスタ  メッセージマスタ  親荷主子荷主マスタ  メッセージマスタ  利用者関連付けテーブル  メッセージマスタ  メッセージマスタ  メッセージマスタ  メッセージマスタ  コンテナ管理テーブル  集荷管理テーブル  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  コード名称マスタ  駅マスタ  利用者トラック管理テーブル  臨時トラック管理テーブル  留置先マスタ  船舶積載報告管理テーブル  コンスタントマスタ  原票輸送情報テーブル  列車位置サーバー  原票輸送情報テーブル  列車位置サーバー  コンスタントマスタ  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  駅マスタ  メッセージマスタ  駅マスタ  メッセージマスタ  利用者マスタ  メッセージマスタ  集配人マスタ  親荷主子荷主マスタ  お客様マスタ  メッセージマスタ  お客様マスタ  メッセージマスタ  原票管理テーブル  メッセージマスタ  集荷管理テーブル  原票管理テーブル  親荷主お客様関連付けマスタ  配達管理テーブル  原票管理テーブル  親荷主お客様関連付けマスタ  コード名称マスタ  コンテナ管理テーブル  コンスタントマスタ  原票輸送情報テーブル  列車位置サーバー  列車位置サーバー  コンスタントマスタ  コンスタントマスタ  コンスタントマスタ  集荷管理テーブル  配達管理テーブル  メッセージマスタ  コンテナ所在照会回答電文(553)  コンテナ管理テーブル  メッセージマスタ  コンテナ管理テーブル  コンテナ所在照会回答電文(553) | － 目　次 －  [1 処理概要 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 3](#_Toc185859744)  [2 使用権限 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 3](#_Toc185859751)  [3 処理内容 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 3](#_Toc185859753)  [3.1　初期画面表示 ･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 3](#_Toc185859754)  [3.2　参照（お客様権限ログイン時の参照ボタン押下時処理）･････････････････････････････････････････ 4](#_Toc185859764)  [3.3　検索　･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 6](#_Toc185859765)  [3.3.1 検索時における入力項目及び各項目のチェック ･････････････････････････････････････････････ 6](#_Toc185859766)  [3.3.2 原票番号もしくはコンテナ番号が入力された場合 ･･･････････････････････････････････････････ 7](#_Toc185859771)  [3.3.3 原票番号とコンテナ番号のどちらも入力されない場合（お客様権限以外）･･････････････････････ 15](#_Toc185859821)  [3.3.4 お客様権限でのログイン時 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････ 26](#_Toc185859862)  [3.4 ファイル出力 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 34](#_Toc185859945)  [3.5 所在合わせ ･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 35](#_Toc185859950)  [3.6 クリア ･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 38](#_Toc185859963)  [4　処理条件 ･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 38](#_Toc185859965)  [4.1 前提条件 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 38](#_Toc185859966)  [4.2 機能制限 ･･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 38](#_Toc185859969)  [4.3 その他 ･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････ 38](#_Toc185859971)  　　　　列車位置サーバー   * コンテナ位置状態照会画面   コンテナ位置・  状態照会処理  コンテナ積載列車検索処理   * コンテナ位置状態ファイル * コンテナ管理テーブル * コンテナ所在照会送信電文(553) * コンテナ所在照会回答電文(553)  1. 処理概要   コンテナの位置・状態情報を照会する。   * 1. コンテナ位置・状態照会画面を表示する。   2. 「検索」は、発送日範囲、到着日範囲、発着利用者及び発着お客様コードの指定で検索を行い、一覧を表示する。原票番号、コンテナ番号が指定された場合は、コンテナ所在履歴情報を表示する。   3. 「ファイル出力」は、入力した検索条件で表示した内容をＣＳＶファイルで出力する。   4. 「ファイル出力（遅延情報あり）」は、1.3にて出力する内容に遅延予定情報を追加したものをＣＳＶファイルで　出力する。   5. 「所在合わせ」はFRENSのコンテナ所在情報でIT-FRENSのコンテナ所在情報を更新する。   6. 「クリア」は、画面を初期表示状態に戻す。   查询容器的位置和状态信息。  1.1显示容器位置/状态显示屏幕。  1.2“搜索”通过指定发货日期范围，到货日期范围，到达和离开用户以及出发/到达客户代码来执行搜索，并显示列表。 当指定了单据号和容器号时，显示容器位置历史信息。  1.3“文件输出”将输入搜索条件下显示的内容输出为CSV文件。  1.4“文件输出（带延迟信息）”输出要在1.3中输出的内容加上延迟的时间表信息作为CSV文件。  1.5“位置”是FRENS的容器位置信息，并更新IT-FRENS的容器位置信息。  1.6“清除”将屏幕恢复到初始显示状态。  2　使用権限  本機能の使用権限を表１に示す。  ＜表１．使用権限＞    3　処理内容   * 1. 初期画面表示      1. 「検索」、「クリア」ボタンを表示する。      2. 画面を表示する。         1. お客様権限のログインの場合、原票番号、コンテナ番号のテキストボックスの入力不可とする。         2. お客様権限のログインの場合、お客様コードテキストボックス右に「参照」ボタンを表示する。      3. ログイン情報でユーザ管理テーブルを参照し、関係会社またはお客様かどうかのチェックを行う。         1. 関係会社の場合、利用者コードを取得する。         2. お客様の場合、ユーザ管理テーブル.代表利用者コードより親荷主コードまたはお客様コードを取得する。   3.1初始屏幕显示  3.1.1显示“搜索”和“清除”按钮。  3.1.2显示屏幕。  3.1.2.1如果使用客户授权登录，则无法输入单据编号和容器编号的文本框。  3.1.2.2如果以客户权限登录，请在客户代码文本框右侧显示“参考”按钮。  3.1.3使用登录信息检查用户管理表，检查是否为关联公司或客户。  3.1.3.1如果是关联公司，请获取用户代码。  3.1.3.2如果是客户的用户管理表，请从代表用户代码中获取父托运人代码或客户代码。   * 1. 参照（お客様権限ログイン時の参照ボタン押下時処理）   3.2 请参阅（客户授权登录时按下参考按钮时的处理） 3.1.3.2で取得した値が空白の場合、エラーとしてエラーメッセージを表示する。 “予測以外のエラーが発生しました<BR>システム管理者に連絡してください”（SDS0013） ~~発お客様コードの参照ボタンが押下された際に発駅コードまたは発お客様コードが空白の場合、エラーとしエラーメッセージを表示する。~~ ~~“駅コード又は営業所コードを入力してください” (SYJ0192）~~ ~~着お客様コードの参照ボタンが押下された際に着駅コードまたは着お客様コードが空白の場合、エラーとしエラーメッセージを表示する。~~ ~~“駅コード又は営業所コードを入力してください”(SYJ0192）~~ 駅コードまたは営業所コードが空白でない場合~~親荷主マスタを下記条件で参照する。~~3.2.4当站代码或分支机构代码不为空时　親荷主マスタを下記条件で参照する。3.2.4.1在下列条件下，请参阅母船长。 【抽出条件】[提取条件] 　親荷主マスタ.親荷主コード ＝ 親荷主コード　または　お客様コード（3.1.3.2で取得した値）父托运人master.Parent托运人代码=父托运人代码或客户代码（在3.1.3.2中获得的值）データが存在した場合、親荷主子荷主マスタを下記条件で参照して子荷主コードを取得し、お客様コードとする。 【抽出条件】 　親荷主子荷主マスタ.親荷主コード ＝ 親荷主マスタ.親荷主コードデータが存在しなかった場合、3.1.3.2で取得した値をお客様コードとする。お客様マスタより、下記条件でお客様略名称を取得する。 【抽出条件】  お客様マスタ.お客様コードIN お客様コード（3.2.4.1で取得したお客様コード）  お客様マスタ.ＪＲ駅コード ＝ ユーザー入力値.駅コード または .営業所コード　または 空白  お客様マスタ.社線駅サブコード ＝ ユーザー入力値.社線駅サブコード .営業所サブコード または　空白  お客様マスタ.有効開始年月日 　≦ システム日付  お客様マスタ.有効終了年月日 ≧ システム日付  客户主数据。客户代码IN客户代码（3.2.4.1中获取的客户代码）  客户master.JR站代码=用户输入值。站代码或商务办公代码或空白  客户主数据。公司行子代码=用户输入值。公司线路站子代码。销售办事处子代码或空白  客户主数据。有效期开始日期≤系统日期  客户主数据。有效期结束日期≧系统日期 駅コードおよび営業所コードが空白の場合 3.2.5当站代码和办公室代码为空时お客様マスタ、親荷主マスタおよび親荷主お客様関連付けマスタより、下記条件でお客様略名称およびその所属駅を取得する。3.2.5.1在以下条件下，从客户主人，主托运人主人和父托运人客户协会主人处获取客户缩写名称及其附属站点。 【抽出条件】  親荷主マスタ.お客様コード ＝ ログインユーザの代表利用者コード（3.1.3.2で取得した値）  （このとき、親荷主略名称をお客様略名称＋”（全体）”、所属駅は空白とする。）  または  親荷主お客様関連付けマスタ.代表利用者コード ＝　ログインユーザの代表利用者コード  （3.1.3.2で取得した値）  親荷主お客様関連付けマスタ.有効開始年月日 　≦ システム日付  親荷主お客様関連付けマスタ.有効終了年月日 ≧ システム日付 取得した所属駅から、駅略名を取得する。ただし、所属駅が設定されていない場合は表示しない。取得したお客さまコード、お客さま略名、駅略名をポップアップに表示する。（図１参照）各項目のアンカーを選択すると、選択したお客様コードをお客様コード（発または着）入力欄にセットしサブ画面を終了する。 　　　 ＜図１．お客様コード一覧＞  0X001　親荷主名（全体）  00001 お客様略名その１（駅略名その１）  00002 お客様略名その２  :  閉じる 　　　　　　　　　※駅略名を表示するのは、駅コードおよび営業所コードが空白の場合のみ。「閉じる」を押下するとお客様コード入力欄への反映を行わずにサブ画面を終了する。値をセット後に値を直接修正した場合は、修正後の値を有効とする。  * 1. 検索(下記チェックでエラーとなった時、後続処理は実行せずエラーメッセージを画面表示する。)   3.3搜索（如果在以下检查中发生错误，则不执行后续处理，并在屏幕上显示错误消息。）   * + 1. 検索時における入力項目及び各項目のチェック内容を表２に示す。   3.3.1表2显示了搜索时的输入项目和每个项目的检查内容。  ＜表２．検索時における各項目のチェック内容＞  <表2。 在搜索时检查每个项目的项目>    ＜表２．検索時における各項目のチェック内容＞    ※お客様権限ログイン時は、お客様発コードまたはお客様着コードを必須とする。  客户授权登录时，必须提供客户代码或客户到货代码。   * + 1. 原票番号もしくはコンテナ番号が入力された場合は以下の処理を実行する。   3.3.2输入单据编号或容器编号时，执行以下处理   * + - 1. 原票番号とコンテナ番号の両方を指定された場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “原票番号とコンテナ番号は同時に指定できません”       2. 原票番号かコンテナ番号の入力時に、他の抽出条件が指定された場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。“原票番号／コンテナ番号と他項目は同時に指定できません”(SKK0001)       3. コンテナ番号が入力された場合、入力されたコンテナ番号でコンテナ管理テーブルを参照する。 コンテナ番号が存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するコンテナ番号が存在しません”(SCM0016)       4. コンテナ管理テーブルの原票番号が空白以外の場合は、その原票番号から原票管理テーブルを参照する。原票番号が存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する原票番号が存在しません”(SCM0012)       5. 原票番号が入力された場合、入力された原票番号から原票管理テーブルを参照する。          1. 原票番号が存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 　“該当する原票番号が存在しません” (SCM0012)          2. コンテナ番号が取得できない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 　“原票番号から該当するコンテナ番号が取得できません”(SKK0003)          3. 取得したコンテナ番号でコンテナ管理テーブルを参照する。コンテナ番号が存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するコンテナ番号が存在しません”(SCM0016)          4. コンテナ番号が取得できた場合は、画面のコンテナ番号欄にコンテナ管理テーブルのコンテナ番号を表示する。       6. 代表利用者でログインした場合は、利用者関連付けテーブルに登録されている関連利用者所属駅コード、関連利用者コードの全てを取得する。          1. 関連利用者コードを利用者関連付けテーブルから取得できない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “利用者との関連付けが設定されていません”          2. 利用者関連付けテーブルから取得した所属駅コード、利用者コードに、原票管理テーブルの発／着駅コード、発／着利用者コードと同一の情報が無い場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するデータは他利用者の情報です”(SKK005)       7. 関係会社でログイン時、ログイン情報から取得した利用者コードがコンテナ管理テーブルの所有者コードと異なる場合エラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するデータは参照できません”(SKK0169)       8. コンテナ番号が入力された場合、入力されたコンテナ番号でコンテナ管理テーブルを参照する。          1. 取得したコンテナ管理テーブルのデータから一覧部のコンテナ番号，コンテナ位置(原票番号テーブルが取得できた場合は除く)，積空，点検情報，使用期限を表示し、画面上部の表示領域に今回点検日、今回点検箇所、次回点検月を表示する。   点検情報の長期フラグ表示判定のため、下記処理を行う。 長期停泊日数管理マスタより、下記条件で警告日数を取得する 【抽出条件】  　KEY　＝ '1‘  【抽出項目】  　警告表出力規定日数  下記条件に合致する場合は、点検情報に「長」と表示する。 システム日付　≧　警告票出力規定日数　＋　コンテナ管理テーブル.長期停泊起算日  点検情報の表示判定（長期フラグ以外） ・コンテナ管理テーブルの運用停止フラグが"1"の場合は、点検情報に「休」と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの点検待ちフラグが"1"の場合は、点検情報に「点」と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの修理フラグが"1"で禁止表示フラグが"0"の場合は、点検情報に「修」 　と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの修理フラグが"1"で禁止表示フラグが"1"の場合は、点検情報に「禁」 　と表示する。（「修」は表示しない） ・コンテナ管理テーブルの捕捉対象フラグが"1"の場合は、点検情報に「捕」と表示する。 ・表示は"休点修捕長廃"又は"休禁点捕長廃"の順とする   * + - * 1. コンテナ管理テーブルの原票番号が空白以外の場合、その原票番号から原票管理テーブル、集荷管理テーブル、配達管理テーブルを取得し、そのデータから原票番号，発駅，着駅，発利用者名，着利用者名，お客様名(発)，お客様名(着)，発送日，到着日，コンテナ位置，コンテナ状態，コンテナ所在，更新日時，遅れ情報を表示する。       1. 原票番号が入力された場合、入力された原票番号から原票管理テーブルを参照する。          1. 取得した原票管理テーブルのデータから原票番号，発駅，着駅，発利用者名，着利用者名，お客様名(発)，お客様名(着)，発送日，到着日，コンテナ位置，コンテナ状態，コンテナ所在，更新日時，を表示する。          2. 原票管理テーブルの確定コンテナ番号から取得したコンテナ管理テーブルのデータから一覧部のコンテナ番号，コンテナ位置(原票番号テーブルが取得できた場合は除く)，積空，点検情報，使用期限を表示する。   点検情報の長期フラグ表示判定のため、下記処理を行う。 長期停泊日数管理マスタより、下記条件で警告日数を取得する 【抽出条件】  　KEY　＝ '1‘  【抽出項目】  　警告表出力規定日数  下記条件に合致する場合は、点検情報に「長」と表示する。 システム日付　≧　警告票出力規定日数　＋　コンテナ管理テーブル.長期停泊起算日  点検情報の表示判定（長期フラグ以外） ・コンテナ管理テーブルの運用停止フラグが"1"の場合は、点検情報に「休」と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの点検待ちフラグが"1"の場合は、点検情報に「点」と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの修理フラグが"1"で禁止表示フラグが"0"の場合は、点検情報に「修」 　と表示する。 ・コンテナ管理テーブルの修理フラグが"1"で禁止表示フラグが"1"の場合は、点検情報に「禁」 　と表示する。（「修」は表示しない） ・コンテナ管理テーブルの捕捉対象フラグが"1"の場合は、点検情報に「捕」と表示する。 ・表示は"休点修捕長廃"又は"休禁点捕長廃"の順とする   * + - * 1. 取得したコンテナが段積みの場合は、段積みの親のコンテナ番号のみを表示する。       1. コンテナ管理テーブルの所在情報から、対象コンテナの現所在情報を作成する。          1. 所在区分が“1”（駅内）、位置種別が“1”（地面）の場合、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅内”とエリアID（フォーク作業同期フラグがON且つエリアIDが空白、ALL0以外の場合）を表示する。          2. 所在区分が“1”（駅内）、位置種別が“3”（構内トラック）の場合   コンテナ管理テーブルの所在駅とコンテナ管理テーブルの積載車IDで構内トラック管理テーブルを参照し、通称を取得し、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅内”と構内トラック管理テーブルの通称を表示する。  通称が取得できなかった場合、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅内”とコンテナ管理テーブルの積載車IDを表示する。   * + - * 1. 所在区分が“1”（駅内）、位置種別が“4”（貨車上）の場合、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅内”とコンテナ管理テーブルの積載車IDを表示する。         2. 所在区分が“1”（駅内）、位置種別が“5”（フォーク）の場合、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅内”とコンテナ管理テーブルの積載車IDを表示する。         3. 所在区分が“2”（駅外）、位置種別が“6”（トラック）の場合   コンテナ管理テーブルの積載車IDをナンバー地名マスタ、ナンバーかなマスタから参照して日本語化する。  現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅外”と日本語化したトラックナンバーを表示する。   * + - * 1. 所在区分が“2”（駅外）、位置種別が“6”（トラック）、代行輸送中フラグが“1”（代行輸送中）の場合   コンテナ管理テーブルの積載車IDをナンバー地名マスタ、ナンバーかなマスタから参照して日本語化する。  現所在情報に“代行”と日本語化したトラックナンバーを表示する。   * + - * 1. 所在区分が“2”（駅外）、位置種別が“7”（駅外留置先）または“B”（駅内指定留置先）の場合、現所在情報にコンテナ管理テーブルの所在駅と“駅外 留置先”とコンテナ管理テーブルの持出利用者所属駅コード、持出利用者コード、持出集配人コードを表示する。         2. 所在区分が“3”（列車）の場合、コンテナ管理テーブルの列車番号と、“列車”とコンテナ管理テーブルの積載車IDを表示する。         3. 所在区分が“4”（船舶）の場合、“船舶”とコンテナ管理テーブルの列車番号と、“便”を表示する。       1. コンテナ所在履歴の情報取得のため、コンテナ番号をコンテナ所在照会送信電文(553)に編集し、ＦＲＥＮＳに送信する。 編集内容を以下に示す。 【コンテナ所在照会送信電文】 ①コンテナ番号　＝　画面入力されたコンテナ番号（原票番号指定時は原票管理テーブルのコンテナ番号） ＦＲＥＮＳよりコンテナ所在照会回答電文(553)を受信する。 エラー回答の場合は、ＦＲＥＮＳエラーメッセージを表示する。 ただし、FRENSのエラーコードがRED01の場合はOKみなしとしてIT-FRENSのコンテナ管理テーブルの情報のみ表示する。          1. ログインユーザの権限が“06”(代表利用者)の場合、代表利用者配下の利用者の情報をコンテナ所在照会送信電文(553)ヘッダーに設定       2. コンテナ所在照会回答電文(553)から取得した点検状態を画面上部の表示領域に表示する。          1. コンテナ管理テーブルの禁止表示フラグが"1"の場合、「禁止」を表示する。          2. コンテナ管理テーブルの禁止表示フラグが"0"で、点検フラグが"1"の場合、「点検」を表示する。          3. コンテナ所在照会回答電文(553)の修理フラグが"1"の場合、「修理」を表示する。          4. コンテナ所在照会回答電文(553)の長期フラグが"1"の場合、「長期」を表示する。          5. コンテナ所在照会回答電文(553)の捕捉フラグが"1"の場合、「捕捉」を表示する。          6. 3.3.2.12.1から3.3.2.12.5の順で、条件を満たす全ての文字を表示する。       3. コンテナ所在照会回答電文(553)から所在履歴情報を一覧表示する。          1. コンテナ所在照会回答電文(553)の受付番号で原票管理テーブルから原票番号を取得する。但し、コンテナ所在照会回答電文(553)所在情報の繰り返し１番目（画面でいうFRENS現在の行）の場合のみ、原票管理テーブルの発送日が最新の原票番号を取得する。          2. 所在履歴表示時の画面表示内容は、一覧部に２０世代分の原票番号、コンテナ番号、コンテナ位置、積空、コンテナ状態、コンテナ所在、更新日時、画面上部の表示領域に受付番号、等級、状態、次継送列車(列車番号・便名)、行先とする。          3. 次継送列車(列車番号・便名)、行先は、ステータスが“7”(中継待ち)の場合、原票輸送情報テーブルより取得して画面表示する。          4. コンテナ所在照会回答電文(553)の所在状態区分が“6”（列車現）の場合、コンテナ所在照会回答電文(553)の所在駅コードの社線駅サブコード部によりコンテナ所在の表示を変更する。（社線駅サブコード部には列車種別が設定される） 列車種別に列車が設定されている場合は、便名のみ表示する。 列車種別にトラック代行が設定されている場合は、便名に“トラック”の文言を追加した形で表示する。 列車種別に船舶代行が設定されている場合は、便名に“船舶”の文言を追加した形で表示する。          5. コンテナ所在照会回答電文(553)の所在状態区分が“2”（駅外）の場合、既に編集されたコンテナ所在の後ろに、駅外留置先名を追加編集して表示する。       4. コンテナ所在照会回答電文(553)の発生日が現在日時より６９日以後かつ、ログイン権限が、利用者または代表利用者以外の場合、原票番号は、原票登録（参照）画面へのリンクとする。引渡パラメータとしては原票番号を設定する。       5. 国外輸送情報表示（Colins情報取得） コンテナの状態が下記条件のいずれかに該当する場合は3.3.2.15.1 Colins情報の参照を行う 条件1：コンテナ所在が駅外かつ原票と紐付いていない場合 条件2：コンテナ所在が駅外かつ（原票のステータスが4未満（集荷完了未満） 　　　　 または13（配達中））の場合 条件3：コンテナ所在が駅内で所在がコンスタントマスタ「種別31」の 　　　　　対象外営業所と同一の場合（上海など）          1. コンテナ番号にて輸入コンテナ情報テーブル、輸出コンテナ情報テーブルの参照を行う   輸入コンテナ情報の搬入日時と輸出コンテナ情報のゲートイン日時を比較し輸入コンテナ情報の搬入日時が新しい場合（輸出コンテナ情報テーブルにデータが存在しない場合も含む） 搬入日時と使用料留置料対象情報テーブルの対象外※1とならない最新の出力日時を比較し搬入日時のほうが最新であればコンテナ位置状態照会画面に 「国外輸送情報　ターミナル港」※2と表示を行う  輸入コンテナ情報の搬入日時と輸出コンテナ情報のゲートイン日時を比較し輸出コンテナ情報のゲートイン日時が新しい場合（輸入コンテナ情報テーブルにデータが存在しない場合も含む）輸出コンテナ情報の船名、コールサイン、VoyageNoにて船舶動静テーブルの参照を行う  輸出コンテナ情報のゲートイン日時と船舶動静テーブルの出航実績日時を比較し輸出コンテナ情報テーブルのゲートイン日時が新しい場合（船舶動静テーブルにデータが存在しない場合も含む） ゲートイン日時と使用料留置料対象情報テーブルの対象外※1とならない最新の出力日時を比較しゲートイン日時のほうが最新であればコンテナ位置状態照会画面に 「国外輸送情報　ターミナル港」※3と表示を行う  輸出コンテナ情報のゲートイン日時と船舶動静テーブルの出航実績日時を比較し船舶動静テーブルの出航実績日時が新しい場合 出航実績日時と使用料留置料対象情報テーブルの対象外※1とならない最新の出力日時を比較し出航実績日時のほうが最新であればコンテナ位置状態照会画面に 「国外輸送情報　船舶輸送中（ターミナル港出航済み）」※3と表示を行う  輸入、輸出情報が存在しない場合コンテナ位置状態照会に「国外輸送情報」を表示しない  ※1下記の条件にあてはまるレコードを対象外使用料留置料対象情報とする １、「報告分類、作業種別、作業区分」が駅外配達完了となるレコード ２、発生JR駅コードがコンスタントマスタ「種別31」の種別値1と同一 ３、利用者所属JR駅コードがコンスタントマスタ「種別32」の種別値1と同一 　　かつ利用者所属社線駅サブコードがコンスタントマスタ「種別32」の種別値2と同一 　　かつ利用者コードがコンスタントマスタ「種別32」の種別名称と同一 　　かつ持込箇所コードがコンスタントマスタ「種別32」の種別値3と同一  ※2輸入コンテナ情報テーブルのターミナルコードでコンスタントマスタ「種別33」を参照しターミナル名を取得する ※3輸出コンテナ情報テーブルのターミナルコードでコンスタントマスタ「種別33」を参照しターミナル名を取得する   * + - 1. 原票管理テーブルとコンテナ管理テーブルの内容を参照時に取得し、１行目には3.3.2.8から3.3.2.10までの処理を行い、画面表示する。２行目以降は3.3.2.11で取得した所在の履歴情報と、コンテナ所在照会回答電文(553)の受付番号で原票管理テーブルを参照し、原票番号，発駅，着駅，発利用者名，着利用者名，お客様名(発)，お客様名(着)，発送日，到着日，コンテナ位置，コンテナ状態を取得、画面表示する。       2. 原票管理テーブルに該当するデータが存在しなければ、コンテナ所在照会回答電文(553)の受付番号を表示し、原票番号，発駅，着駅，発利用者名，着利用者名，お客様名(発)，お客様名(着)，発送日，到着日，コンテナ位置，コンテナ状態の項目欄には、空白を設定する。       3. メニュー管理マスタの“パラメータ１”が“１”かつ、ログイン権限が検修・お客様・関係会社以外でコンテナ番号が入力された場合は「所在合わせ」ボタンを表示する。     1. 原票番号とコンテナ番号のどちらも入力されない場合は、以下の処理を実行する。（お客様権限以外）   3.3.3如果既未输入凭证编号也未输入货柜编号，请执行以下处理。 （客户授权除外）   * + - 1. ~~発／着駅コード、発／着営業所コードのいずれも入力されない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。~~   ~~“発駅コード・着駅コード・発営業所コード・着営業所コードの何れかを入力して下さい”(SKK0313)~~  何も入力されていない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。  “原票番号・コンテナ番号・発駅コード・着駅コード・発営業所コード・着営業所コード・  発お客様コード・着お客様コードの何れかを入力してください“ (SKK0446)   * + - 1. 入力された発／着駅コード、発／着営業所コードで駅マスタを参照する。発／着駅コード、発／着営業所コードが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する駅コードが存在しません”(SCM0013)       2. 発駅コードと着お客様コードまたは、着駅コードと発お客様コードが入力された場合エラーとし、エラーメッセージを表示する。 “この組み合わせでは、検索できません”(SKK0269)       3. 発営業所コードのみが入力された場合、かつ発営業所コードの駅種別が“2”(コンテナ営業所) 又は離島営業所区分が“1”(離島営業所)の場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。   “３営業所・離島を検索する場合、発駅を入力して下さい”(SCM0170)   * + - 1. 着営業所コードのみが入力された場合、かつ着営業所コードの駅種別が“2”(コンテナ営業所) 又は離島営業所区分が“1”(離島営業所)の場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。   “３営業所・離島を検索する場合、着駅を入力して下さい” (SCM0170)   * + - 1. 発／着利用者コードが入力された場合、発／着利用者コードと画面の発／着駅コード 又は発／着営業所コードで利用者マスタを参照し、親通運コードを取得する。利用者コードが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する利用者コードが存在しません”(SCM00014)       2. 発／着集配人コードが入力され、利用者マスタから取得した親通運コードが“02”（全通）の場合は、画面の発／着集配人コード、発／着駅コード 又は発／着営業所コードで集配人マスタを参照する。集配人コードが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する集配人コードが存在しません”(SCM0015)       3. 発／着お客様コードが入力された場合は、入力された発／着お客様コードで親荷主マスタを参照する。          1. 親荷主マスタに該当するデータが存在しない場合は、入力された発／着駅コードと発／着お客様コードでお客様マスタを参照する。   お客様マスタに該当するデータが存在しない場合は、駅コードを空白とし入力された発／着お客様コードでお客様マスタを参照する。該当するデータが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するお客様コードが存在しません”(SCM0054)   * + - * 1. 親荷主マスタに該当データが存在した場合は、発／着お客様コードで親荷主子荷主マスタを参照し、代表お客様に対応するお客様コードを取得する。該当するお客様コードが取得できない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “代表お客様コードの関連お客様コードが存在しません”(SCM0189)       1. 代表利用者でログインした場合は、利用者関連付けテーブルに登録されている、関連利用者所属駅コード、関連利用者コードの全てを取得する。          1. 関連利用者コードを利用者関連付けテーブルから取得できない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。　　 “利用者との関連付けが設定されていません”(SKK0004)          2. 代表利用者でのログイン時、入力された発／着利用者コードが利用者関連付けテーブルから取得した利用者に該当しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。　　 “利用者コードが誤っています”       2. 利用者でのログイン時、入力された発／着利用者コードがログイン情報の利用者コードと異なる場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。　 “利用者コードが誤っています”       3. ~~抽出条件に該当する情報の内、原票ステータスが‘4’（集荷完了）以上かつ‘14’（配達完了）以外のデータを原票管理テーブルから一覧表示する。抽出条件に該当するデータが３００件を超えた場合はワーニングとし、３００件までを表示する。~~ 　『状態』項目の選択内容により、下記の抽出条件で原票管理テーブルから一覧表示する。 　・「すべて」選択時は、原票ステータスが‘4’（集荷完了）以上かつ‘14’（配達完了）以外のデータ 　・「抑留」選択時は、原票ステータスが‘8’（抑留）のデータ 　・「滞留」選択時は、原票ステータスが‘4’（集荷完了）かつ滞留フラグが‘1’のデータ 抽出条件に該当するデータが300件を超えた場合はワーニングとし、300件までを表示する。 “処理件数が３００件を超えました”          1. 代表利用者でログインした場合は、原票情報の発／着駅コードと発／着利用者コードが、利用者関連付けテーブルから取得した関連利用者の所属駅コードと関連利用者コードと同一の情報を表示対象とする。          2. 利用者でログインした場合は、原票情報の発／着駅コードと発着利用者コードが、ログイン情報の駅コードと利用者コードと同一の情報を表示対象とする。          3. 関係会社でログインした場合は、コンテナ管理テーブルの所有者コードが 3.1.3 で取得した利用者コードと同一の情報を表示対象とする。          4. 入力された発お客様コードが代表お客様コードでない場合は、原票管理テーブルの原票番号で集荷管理テーブルを参照する。集荷管理テーブルのお客様コードと入力されたお客様コードが同一の原票情報を表示対象とする。          5. 入力された発お客様コードが代表お客様コードの場合は、原票管理テーブルの原票番号で集荷管理テーブルを参照する。集荷管理テーブルのお客様コードが3.2.3.8.2で取得した関連お客様コードと同一の原票情報を表示対象とする。          6. 入力された着お客様コードが代表お客様コードでない場合は、原票管理テーブルの原票番号で配達管理テーブルを参照する。配達管理テーブルのお客様コードと入力されたお客様コードが同一の原票情報を表示対象とする。          7. 入力された着お客様コードが代表お客様コードの場合は、原票管理テーブルの原票番号で集荷管理テーブルを参照する。原票管理テーブルの原票番号で配達管理テーブルを参照する。配達管理テーブルのお客様コードが3.2.3.8.2で取得した関連お客様コードと同一の原票情報を表示対象とする。          8. コンテナ状態は原票管理テーブルのステータス（原票の状態）をコード名称マスタから取得し表示する。   原票管理テーブルのお客様返送区分が“0”の場合は、コード名称マスタからコード種別が“001”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。  お客様返送区分が“0”以外、かつステータスが“12”以上“15”以下の場合は、コード名称マスタからコード種別が“035”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。  お客様返送区分が“0”以外、かつステータスが“11”以下の場合は、コード名称マスタからコード種別が“001”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。   * + - * 1. コンテナ所在は、コンテナ管理テーブルの所在区分、位置種別により表示を変更する。 所在区分が“1”（駅内）の場合は、所在駅名を表示する。 所在区分が“2”（駅外）で位置種別が“6”（通運トラック）の場合は、トラックナンバーを表示する。 所在区分が“2”（駅外）で位置種別が“7”（駅外留置先）または“B”(駅内指定留置先)の場合は、留置先名を表示する。 所在区分が“3”（列車上）の場合は、列車番号を表示する。 所在区分が“4”（船舶）の場合は、船名を表示する。         2. 列車位置稼動チェックを行い、最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報の取得を行う。   表示対象となるのは、コンテナ管理テーブルの所在区分が”3(列車上)”のものとする。それ以外の場合は3.3.3.11.11処理から行う。  コンテナ管理テーブルの列車発駅コード、列車番号、列車発日で原票輸送情報テーブルから原票番号、ルート順序、着ＪＲ駅コード、着社線駅サブコード、特継フラグ（着）を取得する。取得できなかった場合は3.3.3.11.10.4の処理を行う。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.原票番号　　　　　　＝　コンテナＴ.原票番号  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発ＪＲ駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード４桁  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発社線駅サブコード　＝　コンテナＴ.列車発駅コード２桁  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発車年月日　　　　　＝　コンテナＴ.列車発日  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.列車番号・便名　　　＝　コンテナＴ.列車番号  原票番号で原票輸送情報テーブルを読込み、到着済みフラグが立っていない最初の輸送情報レコードから原票番号、ルート順序、着ＪＲ駅コード、着社線駅サブコード、特継フラグ（着）を取得する。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.原票番号　　　　　　＝　コンテナＴ.原票番号  　3.3.3.11.10.2又は、3.3.3.11.10.3で取得した特継フラグ（着）が”1”（着特継）の場合、後続の処理を行う。そうでない場合は3.3.3.11.11の処理から行う。  取得した輸送情報から、列車位置サーバーに最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報を問い合わせる。最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報は列車位置サーバーのコンテナ積載列車検索処理に検索を依頼する事により取得する。  引数の編集内容を以下に示す。 　　　　　　　　　　　【コンテナ積載列車検索】 　　　　　　　　　　　　①積載貨物駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード４桁  ②積載社線駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード２桁 　　　　　　　　　　　　③発日　　　　　　　　　＝　輸送情報.列車発日 　　　　　　　　　　　　④列車番号　　　　　　　＝　輸送情報.列車番号  ⑤取卸貨物駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着ＪＲ駅コード  ⑥取卸社線駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着社線駅サブコード 　　　　　　　列車位置サーバーから戻り値を取得する。  列車位置サーバーから取得した戻り値.区間種別”4”(指定区間着駅)又は”5”(指定区間駅通過後)の場合、再度原票輸送情報テーブルから原票番号、ルート順序、発ＪＲ駅コード、発社線駅サブコード、着ＪＲ駅コード、着社線駅サブコード、特継フラグ（着）を取得する。そうでない場合は3.3.3.11.11の処理から行う。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.原票番号　　＝　輸送情報Ｔ.原票番号  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.ルート順序　＝　輸送情報Ｔ.ルート順序 +1  取得した輸送情報から、列車位置サーバーに次のルートの最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報を問い合わせる。最終測位情報は列車位置サーバーのコンテナ積載列車検索処理に検索を依頼する事により取得する。  引数の編集内容を以下に示す。 　　　　　　　　　　　【コンテナ積載列車検索】 　　　　　　　　　　　　①積載貨物駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード４桁  ②積載社線駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード２桁 　　　　　　　　　　　　③発日　　　　　　　　　＝　輸送情報.列車発日 　　　　　　　　　　　　④列車番号　　　　　　　＝　輸送情報.列車番号  ⑤取卸貨物駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着ＪＲ駅コード  ⑥取卸社線駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着社線駅サブコード 　　　　　　　　　列車位置サーバーから戻り値を取得する。  列車位置サーバーから取得した戻り値.区間種別”3”(指定区間走行中)以後の場合、~~かつ、今回取得した最終測位情報.発時間が、前回取得した最終測位情報.着時間より以後である場合、~~特継されたものとみなし、3.3.3.11.10.2を繰り返す（特継→特継と連続する場合を考慮する）。このとき、抽出条件は今回取得した特継後の輸送情報の値とする。  　　　　　　　そうでない場合は3.3.3.11.11の処理から行う。   * + - * 1. 最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報の表示内容の編集。   列車位置サーバーに接続しない場合は空白で表示する。  列車位置サーバーに接続する場合は、3.3.3.11.10で取得した輸送情報を元に、列車位置サーバーに問い合わせる。最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報は列車位置サーバーのコンテナ積載列車検索処理に検索を依頼する事により取得する。  引数の編集内容を以下に示す。 　　　　　　　　　　　【コンテナ積載列車検索】 　　　　　　　　　　　　①積載貨物駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード４桁  ②積載社線駅コード　　　＝　輸送情報.列車発駅コード２桁 　　　　　　　　　　　　③発日　　　　　　　　　＝　輸送情報.列車発日 　　　　　　　　　　　　④列車番号　　　　　　　＝　輸送情報.列車番号  ⑤取卸貨物駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着ＪＲ駅コード  ⑥取卸社線駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着社線駅サブコード 　　　　　　　列車位置サーバーから戻り値を取得する。  列車位置サーバーに接続した場合の表示内容を編集する。  　　　・区間代行種別が”9”(特定不能)の場合  　　　　　　全て空白で表示。  　　　・区間代行種別が”2”(指定区間発駅)かつ運転状況が未運転の場合  　　　　　　測位位置　　　＝　“現在位置（ＦＲＯＭ）+ “積載完”  　　　　　　採時駅　　　　＝　空白  　　　　　　遅延時分　　　＝　空白  　　　　　　特継列車　　　＝　空白  　　　　　　最終測位日時　＝　空白  所在地　　　　＝　空白  　　　・区間代行種別が”2”(指定区間発駅)又は、”3”(指定区間運転中)又は、”4”(指定区間着駅)の場合  　　　　　　測位位置　　　＝　現在位置（ＦＲＯＭ）～現在位置（ＴＯ）  　　　　　　採時駅　　　　＝　採時箇所  　　　　　　遅延時分　　　＝　遅延時分（フォーク到着報告時は、\*\*\*\*）  　　　　　　特継列車　　　＝　輸送情報の列車番号  　　　　　　最終測位日時　＝　測位日時  所在地　　　　＝　所在地  データパターン区分が”4”,”5”,”6”の場合、下記の処理を行う。  遅延時分を\*\*\*\*で表示する。  コンスタントマスタより種別が「６３」、種別番号が「１」を取得し、種別１が「１」の場合、背景色を橙色にする（黄色または灰色等の背景色を優先する）。  　　　・区間代行種別が”1”(指定区間駅到着前)の場合  　　　　　　測位位置　　　＝　輸送情報の発駅略名+ “積載完”  　　　　　　採時駅　　　　＝　空白  　　　　　　遅延時分　　　＝　空白  　　　　　　特継列車　　　＝　空白  　　　　　　最終測位日時　＝　空白  所在地　　　　＝　空白  　　　・区間代行種別が”5”(指定区間駅通過後)の場合  　　　　測位位置　　　＝　“到着済”  　　　　　　採時駅　　　　＝　空白  　　　　　　遅延時分　　　＝　空白  　　　　　　特継列車　　　＝　空白  　　　　　　最終測位日時　＝　到着日時  所在地　　　　＝　空白  　　　　　　　　・遅延予定情報・遅延事由情報の編集  　　　　　　　　　　　遅延予定駅　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.表示駅 + 列車遅延駅別時刻テーブル.着発情報  　　　　　　　　　　　遅延予定時刻　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.予定日時  　　　　　　　　　　　遅延予定分　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.予定遅延時間（分）  　　　　　　　　　　　遅延事由発生日　＝　遅延事由マスタ.発生年月日（MM/DD）  　　　　　　　　　　　遅延事由線区　＝　遅延事由マスタ.線区コード（線区マスタより運用線区名称を取得）  　　　　　　　　　　　・代表利用者以下の権限の場合（検修を除く）  　　　　　　　　　　　　遅延事由事故種別　＝　遅延事由マスタ.事故種別(輸送障害マスタより読み替え名称を取得)  　　　　　　　　　　　・それ以外の権限の場合  　　　　　　　　　　　　遅延事由表題　＝　遅延事由マスタ.表題  　　　　　　　　・ログインIDが代表利用者・利用者・関係会社の場合、下記の内容でコンスタントマスタを参照し、  　　　　　　　　　種別値１を取得する。　種別値１が「ON」の場合のみ遅延予定情報を表示する。  　　コンスタントマスタ.種別　　　　 ＝ “17”  　　コンスタントマスタ.種別番号　　 ＝ “1”  　　コンスタントマスタ.有効開始日付 ≧ システム日付  　コンスタントマスタ.有効終了日付 ≦ システム日付  　　　・ログインIDが代表利用者・利用者・関係会社の場合、下記の内容でコンスタントマスタを参照し、  　　　　種別地１を取得する。種別地１が「ON」の場合のみ遅延事由情報を表示する。  　　コンスタントマスタ.種別　　　　 ＝ “17”  　　コンスタントマスタ.種別番号　　 ＝ “2”  　　コンスタントマスタ.有効開始日付 ≧ システム日付  　コンスタントマスタ.有効終了日付 ≦ システム日付  　　　　　　　　・ログインIDが代表利用者・利用者・関係会社の場合、下記の処理を行う。   1. 列車情報表示データから制限解除利用者マスタを検索し、データが取得できた場合、ロ）の処理を行う。データが取得できなかった場合、列車情報表示データの遅延予定駅、遅延予定時刻を表示する。   抽出条件】  　制限解除利用者マスタの表示制限始発駅　　＝　列車情報表示データの始発駅コード  　制限解除利用者マスタの表示制限始発列番　＝　列車情報表示データの始発列車番号  ロ）列車情報表示データとログイン情報データから制限解除利用者マスタを検索し、データが取得できなかった場合、遅延予定駅、遅延予定時刻に空白表示する。データが取得できた場合、列車情報表示データの遅延予定駅、遅延予定時刻を表示する。  【抽出条件】  　制限解除利用者マスタの表示制限始発駅　　＝　列車情報表示データの始発駅コード  　制限解除利用者マスタの表示制限始発列番　＝　列車情報表示データの始発列車番号  　制限解除利用者マスタの制限利用者駅　　　＝　ログイン情報のＪＲ駅コード　＋　社線駅サブコード  　制限解除利用者マスタの制限解除利用者コード＝ログイン情報の利用者コード又は代表利用者コード  　制限解除利用者マスタの有効期限ＦＲＯＭ　　＜＝　システム日付  　制限解除利用者マスタの有効期限ＴＯ　　　　＞＝　システム日付  ※　戻り値のデータで無い項目の場合は空白表示   * + - * 1. コンテナ所在照会回答電文(553)の発生日が現在日時より６９日以後かつ、ログイン権限が、利用者または代表利用者以外の場合、原票番号は原票登録（参照）画面へのリンクとする。引渡パラメータとしては、原票番号を設定する。         2. お客様発名称は、原票管理テーブルのお客様（発）コードにより集荷管理テーブルから取得し、表示する。         3. お客様着名称は、原票管理テーブルのお客様（着）コードにより配達管理テーブルから取得し、表示する。         4. 点検情報、使用期限はログインユーザが「検修」以上の場合にのみ表示する。         5. 「ファイル出力」ボタンは、検索後に１件以上明細が存在する場合に表示する。  お客様権限での検索時、以下の処理を行う。3.3.4使用客户授权进行搜索时，请执行以下处理。ユーザー入力値のチェックを行う。 3.3.4.1检查用户输入值。~~発駅コード~~・発お客様コード・発送日（FROM、TO）または~~着駅コード~~・着お客様コード・到着日（FROM、TO）のどちらかすべてが入力されてない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “必須入力項目です”（SCM0001）発送日のFROM、TOまたは到着日のFROM、TOの差が７日以上である場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “期間指定は最長７日間です”（SYJ0398）発または着の駅コードに入力がある場合、下記条件で駅マスタを参照する。駅マスタにデータが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。  “該当する駅コードが存在しません”（SCM0013） 【抽出条件】 　駅マスタ.駅コード　　　　　＝ ユーザー入力値.駅コード（発または着） 　駅マスタ.社線駅サブコード　＝ ユーザー入力値.社線駅サブコード（発または着） 　駅マスタ.有効開始年月日　　≦ システム日付 　駅マスタ.有効終了年月日　　≧ システム日付発または着の営業所コードに入力がある場合、下記条件で駅マスタを参照する。駅マスタにデータが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する駅コードが存在しません”（SCM0013） 【抽出条件】 　駅マスタ.駅コード　　　　　＝ ユーザー入力値.営業所コード（発または着） 　駅マスタ.社線駅サブコード　＝ ユーザー入力値.営業所サブコード（発または着） 　駅マスタ.有効開始年月日　　≦ システム日付 　駅マスタ.有効終了年月日　　≧ システム日付発／着利用者コードが入力された場合、発／着利用者コードとユーザー入力値.発／着駅コード 又は発／着営業所コードで利用者マスタを参照し、親通運コードを取得する。利用者コードが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する利用者コードが存在しません”(SCM0014)発／着集配人コードが入力され、利用者マスタから取得した親通運コードが“02”（全通）の場合は、画面の発／着集配人コード、発／着駅コード 又は発／着営業所コードで集配人マスタを参照する。集配人コードが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当する集配人コードが存在しません”(SMM0015)入力された発／着お客様コードの入力値チェックを行う。 ユーザー管理テーブル.代表利用者コードより親荷主コードまたはお客様コードを取得し、親荷主子荷主マスタを下記条件で参照し、ユーザー入力値.発／着お客様コードと一致する子荷主データが存在する場合は、入力された発／着駅コードまたは発／着営業所コードまたは空白でお客様マスタを参照する。該当するデータが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するお客様コードが存在しません”(SCM0054)  【抽出条件】  　　親荷主コード ＝ ユーザー管理テーブル.代表利用者コード  上記処理で親荷主子荷主マスタに一致するデータが存在しない場合は、発／着お客様コードと入力された発／着駅コードまたは発／着営業所コードまたは空白でお客様マスタを参照する。該当するデータが存在しない場合はエラーとし、エラーメッセージを表示する。 “該当するお客様コードが存在しません”(SCM0054)  ~~発着駅コードか発着営業所コード、~~発着お客様コードすべてが入力された場合、発または着のいずれかのお客様コードがログインユーザとの親子関係があればよい。   * + - 1. ~~抽出条件に該当する情報の内、原票ステータスが‘4’（集荷完了）以上かつ‘14’（配達完了）以外のデータを原票管理テーブルから一覧表示する。抽出条件に該当するデータが３００件を超えた場合はワーニングとし、３００件までを表示する。~~ 　『状態』項目の選択内容により、下記の抽出条件で原票管理テーブルから一覧表示する。 　・「すべて」選択時は、原票ステータスが‘4’（集荷完了）以上かつ‘14’（配達完了）以外のデータ 　・「抑留」選択時は、原票ステータスが‘8’（抑留）のデータ 　・「滞留」選択時は、原票ステータスが‘4’（集荷完了）かつ滞留フラグが‘1’のデータ 抽出条件に該当するデータが300件を超えた場合はワーニングとし、300件までを表示する。 “処理件数が３００件を超えました”          1. 発お客様コードが入力された場合、入力された発お客様コードと原票管理テーブルの原票番号で集荷管理テーブルを参照する。集荷管理テーブルのお客様コードと入力されたお客様コードが同一、または代表利用者コードが入力された場合、その子荷主と同一コードの原票情報を表示対象とする。発駅および発営業所が入力されていない場合、抽出する対象の駅は下記となる。   【抽出条件】  　発営業所準代行区分＝２（準代行）の場合、原票管理テーブルの発営業所が、入力された代表利用者またはログインユーザの代表利用者のお客様の所属駅と等しい場合のみ出力する。ただし、ログインユーザの代表利用者と無関係のお客様コードが入力された場合は全駅出力する。  　発営業所準代行区分≠２の場合、原票管理テーブルの発駅を同様に比較する。   * + - * 1. 着お客様コードが入力された場合、入力された着お客様コードと原票管理テーブルの原票番号で配達管理テーブルを参照する。配達管理テーブルのお客様コードと入力されたお客様コードが同一、または代表利用者コードが入力された場合、その子荷主と同一コードの原票情報を表示対象とする。着駅および着営業所が入力されていない場合、抽出する対象の駅は下記となる。   【抽出条件】  　着営業所準代行区分＝２（準代行）の場合、着営業所が、入力されたお客様コード（代表利用者）またはログインユーザの代表利用者を代表利用者とするお客様の所属駅のみ出力する。ただし、ログインユーザの代表利用者と無関係のお客様コードが入力された場合は全駅出力する。  　着営業所準代行区分≠２の場合、原票管理テーブルの着駅を同様に比較する。   * + - * 1. コンテナ状態は原票管理テーブルのステータス（原票の状態）をコード名称マスタから取得し表示する。   原票管理テーブルのお客様返送区分が“0”の場合は、コード名称マスタからコード種別が“001”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。  お客様返送区分が“0”以外、かつステータスが“12”以上“15”以下の場合は、コード名称マスタからコード種別が“035”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。  お客様返送区分が“0”以外、かつステータスが“11”以下の場合は、コード名称マスタからコード種別が“001”かつコード値がスタータスと一致するコード名称を取得する。  ステータスが’14(配達完了)’の場合は、コンテナ位置、コンテナ積空、コンテナ所在は表示しない。   * + - * 1. コンテナ所在は、コンテナ管理テーブルの所在区分、位置種別により表示を変更する。 所在区分が“1”（駅内）の場合は、所在駅名を表示する。 所在区分が“2”（駅外）で位置種別が“6”（通運トラック）の場合は、トラックナンバーを表示する。 所在区分が“2”（駅外）で位置種別が“7”（駅外留置先）または“B”(駅内指定留置先)の場合は、留置先名を表示する。 所在区分が“3”（列車上）の場合は、列車番号を表示する。 所在区分が“4”（船舶）の場合は、船名を表示する。         2. 列車位置稼動チェックを行い、最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報の取得を行う。   表示対象となるのは、コンテナ管理テーブルの所在区分が”3(列車上)”のものとする。それ以外の場合は3.3.4.9.6の処理から行う。  コンスタントマスタより下記条件で種別値１を取得する。取得値が"ON”以外の場合、3.3.4.9.6の処理から行う。  【抽出条件】  　　コンスタントマスタ.種別　　　　 ＝ “17”  　　コンスタントマスタ.種別番号　　 ＝ 0  　　コンスタントマスタ.有効開始日付 ≧ システム日付  　コンスタントマスタ.有効終了日付 ≦ システム日付  コンスタントマスタより下記条件でデータを取得し種別値１”1”(列車位置稼動)以外の場合、　　　　　3.3.4.9.6の処理から行う。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　種別　　　＝　 '21'  　　　　　　　　　種別番号　＝　 '0'  　　　　　　　　　有効開始日付<= システム日付 <= 有効終了日付  コンテナ管理テーブルの列車発駅コード、列車番号、列車発日で原票輸送情報テーブルから原票番号、ルート順序、着ＪＲ駅コード、着社線駅サブコード、特継フラグ（着）を取得する。取得できなかった場合は3.3.4.9.6の処理から行う。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.原票番号　　　　　　＝　コンテナＴ.原票番号  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発ＪＲ駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード４桁  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発社線駅サブコード　＝　コンテナＴ.列車発駅コード２桁  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.発車年月日　　　　　＝　コンテナＴ.列車発日  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.列車番号・便名　　　＝　コンテナＴ.列車番号  最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報は列車位置サーバーのコンテナ積載列車検索処理に検索を依頼する事により取得する。  引数の編集内容を以下に示す。 　　　　　　　　　　　【コンテナ積載列車検索】 　　　　　　　　　　　　①積載貨物駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード４桁  ②積載社線駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード２桁 　　　　　　　　　　　　③発日　　　　　　　　　＝　コンテナ管理Ｔ.列車発日 　　　　　　　　　　　　④列車番号　　　　　　　＝　コンテナＴ.列車番号  ⑤取卸貨物駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着ＪＲ駅コード  ⑥取卸社線駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着社線駅サブコード 　　　　　　　列車位置サーバーから戻り値を取得する。  3.3.4.9.5.3又は、3.3.4.9.5.6で取得した特継フラグ（着）に”1”（着特継）の場合、後続の処理を繰り返す。そうでない場合は3.3.4.9.6の処理から行う。  列車位置サーバーから取得した戻り値.区間種別”4”(指定区間着駅)又は”5”(指定区間駅通過後)の場合、再度原票輸送情報テーブルから原票番号、ルート順序、発ＪＲ駅コード、発社線駅サブコード、着ＪＲ駅コード、着社線駅サブコード、特継フラグ（着）を取得する。そうでない場合は3.3.4.9.5の処理から行う。  　　　　　　　　【抽出条件】  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.原票番号　　＝　輸送情報Ｔ.原票番号  　　　　　　　　　輸送情報Ｔ.ルート順序　＝　輸送情報Ｔ.ルート順序 +1  最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報は列車位置サーバーのコンテナ積載列車検索処理に検索を依頼する事により取得する。  引数の編集内容を以下に示す。 　　　　　　　　　　　【コンテナ積載列車検索】 　　　　　　　　　　　　①積載貨物駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード４桁  ②積載社線駅コード　　　＝　コンテナＴ.列車発駅コード２桁 　　　　　　　　　　　　③発日　　　　　　　　　＝　コンテナ管理Ｔ.列車発日 　　　　　　　　　　　　④列車番号　　　　　　　＝　コンテナＴ.列車番号  ⑤取卸貨物駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着ＪＲ駅コード  ⑥取卸社線駅コード　　　＝　輸送情報Ｔ.着社線駅サブコード 　　　　　　　列車位置サーバーから戻り値を取得する。  前列車位置サーバー戻り値.指定区間（ＴＯ）と後列車位置サーバー戻り値.指定区間（ＦＲＯＭ）を比較し、全列車位置サーバーの戻り値.指定区間（ＴＯ）が後列車位置サーバー戻り値.指定区間（ＦＲＯＭ）より大きい場合は3.3.3.11.11の処理から行う。   * + - * 1. 最終測位情報・遅延予定情報・遅延事由情報の表示内容の編集。   列車位置サーバー接続しない場合は空白で表示する。  表示判定  　・特継フラグ（着）が立っていない場合、  　　　　3.3.3.11.10.8で取得した列車位置の戻り値を表示する。  　・特継フラグ（着）が立っていて、区間種別が”3”(指定区間運転中)、区間種別が”4”(指定区間着駅)又は、”5”(指定区間駅通過後)以外の場合  　　　　3.3.3.11.10.8で取得した列車位置の戻り値を表示する。  　・特継フラグ（着）が立っていて、区間種別が”3”(指定区間運転中)、”4”(指定区間着駅)又は、”5”(指定区間駅通過後)の場合  ~~前で取得した戻り値・指定区間（ＴＯ）日時と~~  ~~後で取得した戻り値・指定区間（ＦＲＯＭ）日時と比較する。~~    ~~前で取得した時間が、後で取得した時間より大きい場合~~  ~~前で取得した列車位置の戻り値を表示する。~~  ~~始めに取得した時間が、後で取得した時間より小さい場合~~  　　　　　後送列車として取得した列車位置の戻り値を表示する。  列車位置サーバーに接続した場合の表示内容を編集する。  　　　・区間代行種別が”9”(特定不能)の場合  　　　　　　全て空白で表示。  　　　・区間代行種別が”2”(指定区間発駅)又は、”3”(指定区間運転中)又は、”4”(指定区間着駅)の場合  　　　　　　測位位置　　　＝　現在位置（ＦＲＯＭ）～現在位置（ＴＯ）  　　　　　　採時駅　　　　＝　採時箇所  　　　　　　遅延時分　　　＝　遅延時分（フォーク到着報告時は\*\*\*\*）  　　　　　　特継列車　　　＝　輸送情報の特継フラグ（着）の次枝番の発列車番号  　　　　　　最終測位日時　＝　測位日時  所在地　　　　＝　所在地  データパターン区分が”4”,”5”,”6”の場合、下記の処理を行う。  遅延時分を\*\*\*\*で表示する。  コンスタントマスタより種別が「６３」、種別番号が「１」を取得し、種別１が「１」の場合、背景色を橙色にする（黄色または灰色等の背景色を優先する）。  　　　・区間代行種別が”1”(指定区間駅到着前)の場合  　　　　　　測位位置　　　＝　“積載完了済”  　　　　　　採時駅　　　　＝　空白  　　　　　　遅延時分　　　＝　空白  　　　　　　特継列車　　　＝　輸送情報の特継フラグ（着）の次枝番の発列車番号  　　　　　　最終測位日時　＝　測位日時  所在地　　　　＝　空白  　　　・区間代行種別が”5”(指定区間駅通過後)の場合  　　　　測位位置　　　＝　“到着済”  　　　　　　採時駅　　　　＝　空白  　　　　　　遅延時分　　　＝　空白  　　　　　　特継列車　　　＝　輸送情報の特継フラグ（着）の次枝番の発列車番号  　　　　　　最終測位日時　＝　測位日時  所在地　　　　＝　空白  　　　　　　　　・遅延予定情報・遅延事由情報の編集  　　　　　　　　　　　遅延予定駅　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.表示駅 + 列車遅延駅別時刻テーブル.着発情報  　　　　　　　　　　　遅延予定時刻　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.予定日時  　　　　　　　　　　　遅延予定分　＝　列車遅延駅別時刻テーブル.予定遅延時間（分）  　　　　　　　　　　　遅延事由発生日　＝　遅延事由マスタ.発生年月日（MM/DD）  　　　　　　　　　　　遅延事由線区　＝　遅延事由マスタ.線区コード（線区マスタより運用線区名称を取得）  　　　　　　　　　　　・代表利用者以下の権限の場合（検修を除く）  　　　　　　　　　　　　遅延事由事故種別　＝　遅延事由マスタ.事故種別(輸送障害マスタより読み替え名称を取得)  　　　　　　　　　　　・それ以外の権限の場合  　　　　　　　　　　　　遅延事由表題　＝　遅延事由マスタ.表題  戻り値のデータで無い項目の場合は空白表示  お客様権限で、コンスタントマスタ553列車位置問い合わせ可否ﾌﾗｸﾞの553遅延予定参照ﾌﾗｸﾞがOFFの場合、以下項目を空白とする。  　　　　　　　　　　　　・遅延予定駅  　　　　　　　　　　　　・遅延予定時刻  　　　　　　　　　　　　・遅延予定分  コンスタントマスタ553列車位置問い合わせ可否ﾌﾗｸﾞの553遅延事由参照ﾌﾗｸﾞがOFFの場合、以下項目を空白とする。  　・発生日付  　・発生線区  　・表題/障害内容   * + - * 1. お客様発名称は、原票管理テーブルの原票番号より集荷管理テーブルを参照して取得し、表示する。         2. お客様着名称は、原票管理テーブルの原票番号より配達管理テーブルを参照して取得し、表示する。         3. ソートは以下の通りとする   発送日を入力し検索された場合  発送日（昇順）、到着日（昇順）、原票番号（昇順）  到着日を入力し検索された場合  到着日（昇順）、発送日（昇順）、原票番号（昇順）  発送日と到着日を入力し検索された場合  　　　　　　　発送日（昇順）、到着日（昇順）、原票番号（昇順）   * + - * 1. 「ファイル出力」ボタンは、検索後に１件以上明細が存在する場合に表示する。   1. ファイル出力 3.4文件输出      1. 現在画面出力している内容をコンテナ位置状態ファイルとして出力する。   3.4.1当前屏幕输出内容作为容器位置状态文件输出 サーバー側出力ファイル名は、業務ＩＤ＋“\_”＋日付８桁(YYYYMMDD)＋時間９桁(HHMMSSmmm).CSVとする。 （時間９桁は、時、分、秒、ミリ秒）  服务器端输出文件名是任务ID +“\_”+ 8个日期（YYYYMMDD）+时间9 HHMMSS mmm.CSV。  （小时9位数是小时，分钟，秒，毫秒）   * + 1. CSVファイルの１行目は各項目の見出しを出力する。     2. サーバー側に出力後、クライアントのダウンロードダイアログを利用し、CSVファイルをダウンロードする。     3. クライアント出力名は任意に変更でき、指定したフォルダに出力する。 クライアント出力ファイルの名のデフォルト表示は、サーバー側出力ファイル名を表示する。     4. お客さま権限ログイン時にはコンテナ状態は出力しない。また、コンスタントマスタの列車位置問い合わせフラグがOFFの場合は遅れ情報を出力しない。   1. 所在合わせ 3.5位置      1. キー項目が変更された場合は、エラーメッセージを表示し、3.5.2以降の処理は行わない。 “キー項目を変更した場合は、再度「検索」ボタンを押下してください。”   3.5.1更改密钥项时，将显示错误消息，并且未完成3.5.2之后的处理。  “如果更改了关键项，请再次按”搜索“按钮。“   * + 1. 3.2.2の検索ボタン押下時と同一の処理を行う。        1. 検索処理にてエラーが発生した場合、3.5.3以降の処理は行わない。     2. コンテナの所在合わせを行う        1. コンテナ所在照会回答電文(553)の先頭の所在情報の所在区分が“列現”、“不在”、“使用止め”の場合は、エラーとしてコンテナ管理テーブルの更新を行わない。 “該当するコンテナは所在合わせできません”        2. 入力されたコンテナ番号でコンテナ管理テーブルを参照する コンテナ管理テーブルの所在区分が“列車上”または“船上”以外の場合、コンテナ所在照会回答電文(553)の先頭の所在情報とコンテナ管理テーブルの所在駅を比較し、所在駅が同一の場合エラーとしてコンテナ管理テーブルの更新を行わない。 “所在駅が同一のため所在合わせできません”        3. ＦＲＥＮＳのコンテナ所在情報チェックを行う 所在合わせボタン押下前のＦＲＥＮＳのコンテナ所在駅とコンテナ所在照会回答電文(553)受信後のＦＲＥＮＳのコンテナ所在駅が異なる場合は、エラーとしてコンテナ管理テーブルの更新を行わない。 “コンテナの所在情報が更新されたため所在合わせできません”        4. コンテナ管理テーブルのコンテナ所在情報のチェックを行う 所在合わせボタン押下前のコンテナ管理テーブルのコンテナ所在駅と3.45.2で取得したコンテナ管理テーブルのコンテナ所在情報が異なる場合は、エラーとしてコンテナ管理テーブルの更新を行わない。 “コンテナの所在情報が更新されたため所在合わせできません”        5. コンテナ所在照会回答電文(553)の先頭の所在情報の内容をコンテナ管理テーブルに反映する。 更新内容を表３に示す。   　　　　　　　　＜表３．コンテナ管理テーブル更新内容＞  <表3。 容器管理表更新内容>   * + - 1. 対象コンテナが段積みコンテナの場合、対象コンテナに対して所在合わせを行い対象コンテナと同一の段積みＩＤをもつコンテナの段積み位置を“１”に、段積ＩＤを空白に更新する。       2. 画面上のＩＴ－ＦＲＥＮＳの表示内容を最新にする 3.3.2.14～3.3.2.15を行う。   1. クリア 3.6清除  画面を初期表示状態に戻す。 3.6.1将屏幕恢复到初始显示状态。 4　処理条件 加工条件   * 1. 前提条件 4.1先决条件      1. ＦＲＥＮＳの稼動状況をチェックし、"ＦＲＥＮＳ停止"の場合は、コンテナ番号または原票番号による検索~~当~~処理は実行できないものとする。   4.1.1检查FRENS的运行状态，在“FRENS停止”的情况下，不能执行此容器编号或文档编号的搜索。   * + 1. ＦＲＥＮＳ回答電文のエラーコードがワーニングの場合、正常扱いとし後続処理を実行する。又、ＦＲＥＮＳから回答されたワーニングメッセージを表示する。   4.1.2 FRENS响应当消息的错误代码是警告时，它将被正常处理并执行后续处理。 此外，它还显示FRENS回答的警告消息。     * 1. 機能制限 4.2功能限制   特に無し。 特别没事。   * 1. その他 4.3其他   特に無し。 | | | コンテナ所在照会送信電文(553)  コンテナ位置状態ファイル  コンテナ管理テーブル  コンテナ管理テーブル |